卓　　話

平成 20 年 11 月 4 日

岐阜県交響楽団と私

田中陽治様

私が岐阜県交響楽団（以下岐響と呼ぶ）に加わって、30 年になる。岐響は今年 54 年目を迎えたが、50 年の節目で行った「サントリーホール」での演奏が大きな転機となった。30 年間毎週土曜日は練習という生活で、大変ではあるが家族のような温かさと、その間理事や指揮の経験のお蔭で様々な素晴らしい出会いも体験できた。団 伊玖磨先生や池辺晋一郎先生との出会い、中国公演、サントリーホールでの公演等々である。そんな私にとって特に大きかった 2 つの出会いは、2 人の音楽家（兼田 敏先生、梅原慎平先生）との出会いだった。お二人にはそれぞれベース（コントラバス）という楽器とアマチュアでの音楽と共に生きる幸せを教えていただき、今でも感謝している。

現在岐響で指揮者として教えていただいている小松一彦先生の存在はまた大きい。その情熱はすさまじく、むしろプロの楽団ではとてもついていけないであろうと思う程である。小松先生の魅力は、音楽の「心」にも「技術」にも徹しきる情熱である。かつて新交響楽団というアマチュアでは伝統・実力もトップの楽団で「ドボルザーク」を聴いたことがあるが、かつてない程感動した。魂のこもった音楽、人間「小松一彦」の底力を感じさせられた。岐響の求めるところも、1 つはここにあると思う。プロにはない、時間をかけ、技術を磨き、聴衆に聴いていただく…。

そしてもう 1 つは子供達やファミリーといった一般の方々にクラシック音楽やコンサートに興味をもって頂く為の橋渡し。この 2 つを私は岐響の役目と心得、これからも頑張っていきたい。ウィーンでは「長良川交響曲」を演奏する。日本の心、岐阜の心を是非伝える為、頑張ってきます。音楽は「心」だから…。

プロフィール

岐阜大学教育学部音楽学科在学中から、コントラバスを梅原慎平・松野 茂両氏に師事。また作曲法を故兼田 敏氏に学ぶ。卒業後、岐阜県交響楽団に入団する。
昭和 63 年、「ぎふ中部未来博」イベント広場におけるサマーコンサートの指揮を担当し、それ以降、今日まで数多くの岐響演奏会を指揮している。とくに、県内各地域で行われる演奏会において、長年にわたる小・中学校教員としての経験を生かした指揮・司会進行が好評を博している。平成 7 年から、指揮法を大阪音楽大学の松尾昌美氏（現、名誉教授）に師事。現在、岐阜女子大学教授。（社）岐阜県交響楽団では、常務理事、コントラバス首席奏者、トレーナーとして活躍中。

新年の 2 月 15 日には、瑞穂市総合文化センター「サンシャイン・ホール」にて、瑞穂市スプリングコンサートとして岐阜県交響楽団を指揮して公演を行うことになっている。